

議会からのお知らせ

令和8年第2回市議会定例会が開催されました



令和8年度東海市一般会計補正予算（第1号）など15議案を可決

日程	内容	概要
6/16	本会議	・報告議案6件について報告 ・承認議案1件を上程、説明、質疑、討論、採決 ・令和8年度東海市一般会計補正予算（第1号）など12議案を上程、説明
	議会運営委員会	・人事案件の候補者などについて審査
6/17	本会議	・一般質問（6人）
6/18	本会議	・一般質問（5人）
6/19	本会議	・6/16に上程された12議案に対する質疑、所管の各委員会に付託
6/23	建設環境経済委員会	・付託議案を審査
6/24	総務消防委員会	・付託議案を審査
6/25	文教厚生委員会	・付託議案を審査
6/26	議会運営委員会	・令和8年第2回市議会定例会最終日の運営方法などについて協議
6/30	本会議	・付託されていた12議案について各委員長からの委員長報告、質疑、討論、採決 ・同意議案1件、諮問議案1件を上程、説明、質疑、討論、採決

今回可決された主な内容

■令和8年度東海市一般会計補正予算（第1号）

◎補正額…2億2,333万5,000円を減額

◎予算総額…548億8,966万5,000円

主な補正内容は、国庫補助金の交付額の減に伴い、道路改修工事の一部を延伸することなどによるものです。そのほか、水道事業会計補正予算（第1号）、下水道事業会計補正予算（第1号）などが可決されました。また、「農業委員会委員の選任について」の同意議案が上程され、同意と決定、「人権擁護委員の候補者推薦について」の諮問が上程され、異議ない旨答申と決定されました。

■東海市立保育所の設置及び管理に関する条例の一部改正について

東海市立名和東保育園を令和8年度末で廃止などするため、改正するものです。



▲議案件名・会議結果一覧

第2回市議会定例会の一般質問は11人の議員から質問がありました。その要旨は次のとおりです。なお、紙面の都合上、一部割愛させていただきましたので、ご了承ください。

一般質問

質問 プレミアムデジタル商品券の追加販売の予定と実施方法及び高齢者などが取り残されないための携帯電話事業者などと連携したデジタル利用支援などについて

答弁 長引く中東情勢などの影響により、食料品などの値上げが今夏以降にも予定されるなど、今後においても物価高騰がさらに続く見通しを踏まえ、5月末に申し込みを終了したプレミアムデジタル商品券について、7月下旬から追加販売ができるよう現在調整しています。

追加販売の実施方法については、購入できる対象者や、プレミアム率、利用期限などの変更はありませんが、当初の申し込みの際に手続きの未完了により購入できなかった方が一定数生じたことや、すでに市内各店舗で使用が開始されていることから、購入方法については、申し込み後に速やかに使用できるよう、先着順による即時購入方式へ変更し、あわせて、購入上限口数を40口、4万円へ増額する予定です。

また、携帯電話事業者などとの連携については、大型スーパーへ出張サポート窓口を開設した際に、同施設内にある携帯電話事業者と同時開催で啓発イベントを実施するなど、連携してサポートを行ってきました。

今後についても、スマートフォンを保有していない高齢者や、情報通信機器に不慣れた市民の方々が、本事業を通じて、スマートフォンなどを利用する契機となり、デジタル化の恩恵を受けることができるよう、利用支援体制に豊富な知識と経験を有する携帯事業者などと連携したスマートフォン教室の開催など、デジタル活用支援方を検討していきます。

質問 消防団の新規入団者の獲得に向けた、市民が消防団と接することのできる機会創出に地域と一体となって取り組んでいく考えについて

答弁 市民と消防団の関わりは、新規入団員を確保する機会であるとともに、消防・防災の観点からも極めて重要です。

特に、地域の方々と各管轄の分団員が直接関わる防災訓練やイベントは、地域と消防団が、顔の見える信頼関係を築き、消防団の魅力を市民に知っていただく貴重な機会であることから、消防団行事の実施場所について見直しを図るなど、より多くの市民の目に触れる機会の創出に取り組んできました。

そのような中、7年度の地域イベントでは、派遣依頼を受けた消防団が警備業務に加えて消防団PRコーナーを設置したところ、2人の新規入団員の加入につながっています。この実績を踏まえ、防災訓練やイベントに消防団が参加する際には、消防団の車両展示やPRブースを設置するなど、消防団員自らが地域の方々と積極的に関わる機会を設けることで、地域と一体となって消防団への理解と関心を高め、加入促進と地域との連携強化につなげていきます。

また、このような活動を展開していくことで、消防団員が地域住民との交流を深め、地域の安全・安心に貢献しているという実感を得ることができ、活動への意欲や使命感の向上にもつながるものと期待しています。



先着順!追加2次販売!

購入金額に30%上昇せ!

東海市プレミアムデジタル商品券

最大40,000円(40口) 52,000円分

購入すると使える!

お申込みはPayPayアプリのこの商品券アイコンから

質問 自力で住宅用火災警報器の交換や取り付けが困難な高齢者などの要配慮世帯に対する、機器の設置や交換に関する支援の導入・拡充の考えについて

答弁 現在、本市で実施している住宅用火災警報器に関する支援制度としては、75歳以上の高齢者がいる世帯に対する住宅防火診断の実施時に、住民が自身で購入した住宅用火災警報器を取り付けることなどが困難な場合に消防職員が支援を実施するほか、ひとり暮らしの高齢者や重度障がい者などに対して、補助や支援の機会を設けています。

しかしながら、現在の取り組みでは、取り付けなどの支援対象となる方が限られており、今後、高齢者などの増加により、支援が必要となる方の増加も見込まれることから、取り付けなどの支援対象者の拡充や、紙による申請に加えて電子申請を導入することなど、支援を必要とする方が、より活用しやすい支援の制度化に向けて、現在検討を進めているところです。

制度化した後は、さまざまな機会を通じて市民へ周知し、支援制度の活用を促すことで、住宅用火災警報器の設置及び適切な維持管理を進めていただくとともに、取り付けなどの支援時にあわせて、防火診断を実施するなど、火災予防啓発にも取り組んでいきます。

質問 100haのまちづくりにおける大型物流施設や大学及びホテルなどの建設の進捗状況について

答弁 名鉄太田川駅周辺においては、100haのまちづくりが着実に進み、今春には商業施設が開業し、にぎわいあふれるまちの姿が見え始めています。

産業物流地区に進出する大型物流施設については、敷地面積約7.3ha、延床面積約16万㎡、地上4階建てとなるプロロジスパーク東海1が9年5月に竣工予定で、その後の動向を踏まえ、プロロジスパーク東海2の計画を進めていくものとなっています。

学術文化地区に進出する日本福祉大学については、敷地面積約2.7ha、地上3階建てで、既存キャンパスと合わせて最大3,200人の学生が集まる新キャンパスが9年4月に開校予定で、隣接する公園についても、大学の開校と合わせて供用開始します。

高次都市機能地区に進出するホテルについては、8年4月に建築工事に着手しており、地上6階建て153室の施設が9年4月に竣工予定となっており、マンションについても、9年4月に土地の引き渡しが行われ、その後、

地上15階建て、間取り2LDKから4LDKの190戸からなる大規模集合住宅の建築工事が進められる予定となっています。

このように各進出事業者による整備が順調に進められており、本市の持続的な発展と飛躍につながることを期待しています。

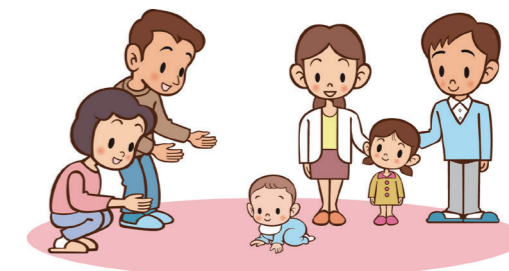


質問 ママ応援事業制度を知らない市民に対する、SNSを活用するなどの周知方法の工夫について

答弁 現在、ママ応援事業については、市広報紙や市ホームページのほか、子育てアプリなどを通じ周知に努めています。また、子育て世代を始めとした多くの方々に事業への関心を高めていただくため、8年度からは、ママ応援事業を含めた子育てに関するさまざまなサービスや相談窓口などを分野横断的にまとめた子育てガイドブックを母子健康手帳の交付時や健診時などで配布しています。

一方、画像や映像による視覚的な情報発信において、特にSNSは、子育て世代の主要な情報取得手段となっていることから、時代の変化に対応した周知方法の更なる充実が必要であると考えています。

今後は、市広報紙において、ママ応援事業の利用者の声など、事業の魅力が伝わる記事を掲載するとともに、子育て世代の多くが日常的に利用しているSNSの活用を検討するなど、利用者や、子育てを応援する有償ボランティアである「応援ママ」の確保にもつながるよう、積極的に、分かりやすい周知方法の工夫に取り組んでいきます。



©Tokai City

質問 車中泊避難場所を整備する考えについて

答 近年の災害における避難生活では、健康状態などさまざまな事情により避難所への避難ではなく、在宅や車中泊で避難生活を送る避難者が発生しており、避難者一人ひとりの事情や状況に応じて適切な場所で避難生活を送ることができるよう、多様な避難形態を想定した支援を行うことが求められています。車中泊避難場所については、広い駐車スペース、トイレ、水道、照明、電気などの生活に欠かせないライフラインの設備が必要であり、また、避難者情報の把握や支援物資の提供、健康管理などの観点からも、一定程度集約した形での整備・設置が望ましいものと考えています。

しかし、車中泊避難場所の候補となる公園や広場、駐車場などのオープンスペースについて、災害発生時において、応急仮設住宅の建設用地や救援部隊の活動拠点、ライフラインの復旧活動拠点など、多様な用途での活用を想定しています。このことから、車中泊避難場所の整備に関しては、拠点避難場所である小中学校の運動場が駐車スペースやライフラインが整備されており、支援物資や支援情報の提供も可能であることから、避難所運営においても連携も図りやすく適切な候補地となると考えています。

引き続き、各オープンスペースの利用想定を整理するとともに、既存の避難所との連携や支援体制の確保を踏まえ、車中泊避難者が安心して避難生活を送ることができるよう検討していきます。



質問 児童生徒の下校時の熱中症対策のため、ネッククーラーなどを冷却するための冷凍庫の段階的な設置の考えについて

答 下校時の熱中症対策については、重要な課題であると認識しており、特に、低学年の児童については体力が十分でないことや、下校する頃の気温が高いことに加え、アスファルトからの照り返しの影響を受けやすいことなどから特段の配慮が必要であると考えています。

また、ネッククーラーなどに関しては、熱中症対策として有効であると考えており、これまでも、下校時の保冷効果の低下や、学校での保管方法などの課題について継続して検討してきたところです。

一方で、世界気象機関から今後5年間の世界の平均気温が観測史上最高に近い水準で推移する予測が発表され、児童生徒の下校時の熱中症対策を早急に整える必要があると考えています。

そこで、ネッククーラーなどを再冷却するための設備について、学校における設置場所などに係る調査をするとともに、保管や管理における教職員の負担軽減策を検討し、保護者の理解も得ながら、迅速かつ段階的な導入を進めていきたいと考えています。



質問 戦略的に観光施策を進めていくため、民間企業経験者や専門スキルを持つ人材の登用や連携を進めていく考えについて

答 経済効果を意識した戦略的な観光施策を進めていくためには、潜在的な地域資源の発掘と磨き上げ、民間事業者などとのタイアップなどの観光コンテンツの質と量の充実と併せて、自由で柔軟な発想でストーリー性を持たせながらビジネスモデルを高めていくことが重要で、民間企業経験や専門スキルを持った人材の活用が必要であると考えています。

こうした中、全国の観光協会において、民間企業経験者を採用する事例が見られてきたところですが、近年では、近隣自治体でも観光担当部署に民間企業からの出向者を登用するなど、民間企業経験者の活用の動きが見受けられます。また、オリジナル旅行を企画する期間限定のアドバイザーを受け入れるなど、プロジェクト単位で民間経験者と連携するなどの多様な連携の形が見られ始めていますので、こうした先進事例などの把握に努めるとともに、民間活用に期待する成果や課題の整理を行いながら、本市における民間ノウハウの活用のあり方について検討していきます。

質問 「困難を抱える子ども」への支援体制の充実に向けた取り組みについて

答 本市では、虐待への予防的な対応や、子育てに困難を抱える家庭への対応など、複数の専門職によるきめ細かい支援を実施する体制を構築しています。

具体的には、虐待に関する相談業務を行う家庭児童専門員のほか、社会福祉士、臨床心理士、保健師を配置し、それぞれの専門性を活かした多角的な支援を行なっています。

また、児童虐待に精通したスーパーバイザーによる支援体制を整え、会議における専門的見地からの助言や、組織体制の強化に向けた助言を受けるとともに、職員への技術支援として、虐待事例における聞き取りの手法や対応が難しい事例への対処方法など、現場で即活用できる実践的な指導を受けています。

さらに、児童相談所の職員などを講師に迎えた研修会の開催や、国・県・関係機関が実施する各種講習会などを積極的に活用するなど、職員の育成やスキルアップにも努めています。

今後も、困難を抱える子どもとその家庭に対し、より一層充実した支援を提供できるよう、支援体制の更なる強化と職員の専門性向上に努め、引き続き取り組んでいきます。

質問 予防接種前における市民への有効性、副反応及び予防接種健康被害救済制度などの説明方法並びに更なる周知、説明の充実に向けた今後の取り組みについて

答 予防接種の有効性、副反応、予防接種健康被害救済制度などの重要な情報については、現在、予診票とともに説明文書を市民の皆さんにお送りしており、予防接種を受ける前に必要な情報を確認いただけるよう周知に努めています。

今後の取り組みとしては、市ホームページにおける情報提供の強化を進める予定で、市ホームページを通じて、予防接種の効果や安全性、予防接種健康被害救済制度の概要、申請手続など、より分かりやすく、かつ詳細な情報を提供することで、市民の皆さんが予防接種について正しい知識を持ち、適切な判断ができるよう支援していきます。

引き続き、市民の皆さんに対して、予防接種に関する正確で分かりやすい情報提供に努めていきます。

質問 らんらんバスが遅延した際に乗り継ぎが不便になっていること及び土日祝日の運行便数を増やす考えについて

答 6年10月のダイヤ・ルート再編では、平日のダイヤについて、移動需要の多い一部区間で複数の路線を運行することにより、1時間に1本以上の運行を確保しました。そのほかの区間においても、バス車両を追加し路線を細分化したことで、バス停によっては運行間隔を1時間程度に短縮しています。

このように路線を細分化した結果、目的地によっては循環バス同士の乗り継ぎが必要となり、道路の混雑状況による遅延のため、乗り継ぎがうまくできない場合も生じています。

また、土日祝日の休日ダイヤについては、平日よりも移動需要が少ないと考えていることから、便数を減らした運行としているところです。

今後の全路線におけるダイヤ・ルートの改正の際には、バスロケーションシステムで把握している遅延状況を参考にするとともに、8年度、実施するAIカメラによるバス停ごとの乗降状況や循環バスの利用実態調査、アンケート調査などを活用し、バスルートの最適化や経済性などを考慮した利便性の高いダイヤの作成に努めていきます。

引き続き、循環バスだけでなく、鉄道や路線バス、タクシーといった市内の既存の公共交通の維持・充実に図りながら、利用者の利便性向上につながるような改善を進めていきます。



詳しい質問の内容については、QRコードをご覧ください。

©Tokai City

問 議事課 ☎ 052-613-7880、0562-38-6455